

ほっとメール

誰もが健康で居心地よく くらせるまちづくり

神奈川みなみ医療生協

2023 年 11 月 13 日



組織部

第 555 号



加齢性難聴者の補聴器購入費用助成に 葉山町から前向きな回答を引き出す!



加齢性難聴は、一般的に 50 歳から始まり、65 歳を超えると急激に増加し、75 歳以上では、その 7 割程度で発症すると言われています。最近では、聴力の低下が、外出の機会を減らし、うつ病や認知症の危険因子になることも指摘されています。

しかし、補聴器の価格が片耳で 3 万円から 20 万円、両耳となる倍以上となり高額であるため、「補聴器を利用したくても購入できない」という悩みが出されています。

そうしたなかで、補聴器の購入費用を助成する自治体は、日本補聴器販売店協会の調べによると 143 か所 (2023 年 4 月 28 日現在) と全国に広がりつつあります。逗子市では、今年の 6 月から助成制度が始まりました。補聴器の活用がさらに進めば、生活の質を落とさず、心身ともに穏やかに過ごすことが出来ます。そこで、下記の要請を三浦市に続き葉山町に行いました。

1. 町民の負担を軽減するため、加齢性難聴者の補聴器購入に係る費用助成を行うこと。

三浦市とは、10 月 16 日に三浦市と懇談しました。同席した高齢介護課の課長は「趣旨は理解できるが、仮に 65 歳以上の 1 割が対象だと考えると 1600 名ほどになり、市単独での助成は考えにくい」と回答。

11 月 10 日は、葉山町と懇談。福祉部の課長は「すでに助成を実施している相模原市や愛川町、今年 6 月から実施を始めた逗子市の取り組みを参考に制度のスキームを検討している」「対象者を誰にするか、果たして住民税非課税という縛りをつけて良いのかなどを検討しているところ。逗子市の取り組み結果も踏まえながら実施に向けて前向きに検討している」と回答。

私たちは、「実施時期はいつ頃になるか」と聞いたところ、「来年 8 月までには新規事業の趣意書を提案できるようにしたいと考えている、早くても 2025 年度実施になる」と回答。最後に制度を利用する場合には、申請手続きの簡素化をお願いして懇談を終了しました。

横須賀市とは、11 月 28 日に懇談予定です。



内田事務長から三浦市へ要請書を提出



葉山町との懇談の様子

*各事業所の取り組みをお寄せください。ニュースで紹介させていただきます。

h-sosiki@k-minami.or.jp